

## ● 読売新聞 神奈川県版「きらり企業」に掲載されました。(2018年2月20日)

(第3種郵便物認可) 2018年(平成30年)2月20日(火曜日) 言

### きらり企業

受付でシステムにカードをかざすと、参拝する仏壇が機械で運ばれてくる。光洋自動機が1996年に開発した自動納骨壇システムだ。広大な土地がなくても効率よく多くの遺骨を収容でき、都市部の駅近くなどでも納骨堂を営むことを可能にした。

山下宣行社長(52)は「天候に左右されず、掃除の必要もない。墓参りが身近なものになる」と話す。

主に手掛けるのは、医薬品や食品、飲料などのラベルを貼る機械の開発。製薬会社の工場を中心に国内の占有率はトップクラスを誇る。

自動納骨壇システムの開発に乗り出したのは、都市部の墓地不足が深刻になってきた

### 都市部の墓参り身近に

かながわ 経済

ためだ。多くは都市部の郊外に作られ、気軽に参拝することができない。お盆やお彼岸に出掛けようとする、長期休暇も重なり、高速道路は大渋滞。「都心でいつでも参拝

できる身近な墓地」を売りにシステムの営業を始めた。当初、寺院などに売り込んで「お骨を機械で運ぶなんてけしからん。ばちあたりだ」と追い返された。しかし、

従来の墓地よりも、建設に対する近隣住民の理解は得やすいうえに、価格も通常の約3分の1ほど。システムを導入した納骨堂は徐々に増えていった。現在は全国で約10か所にのぼる。都市部で家庭を持った地方出身者が親世代の墓を移すケースも増えており、利用者の約2割を占める。

駅の近くなど交通の便も良いため、高齢者でも訪れやすい。山下社長は「年に数回行くかどうかという墓より、いつでも気軽に手を合わせられる納骨堂の方が、良い供養になるのでは」と語る。

管理維持しやすいのも特徴だ。機械の部品はすべてステンレスを使用。コストは割高だが、半永久的にさびない品質を誇る。仏壇の裏側に納めている遺骨が地震で落下しないように、落下防止装置も開発した。

納骨堂の建設は一つ一つに時間をかけるため、急速な事業拡大は望めない。しかし、少子高齢化社会が進むなかで、需要は確実に高まっている。山下社長は「かけがえのないものだからこそ、家庭の負担を軽減させられるよう、支えていきたい」と意気込みを語った。

(田上拓明)

### 光洋自動機 (横浜市港北区)



自動納骨壇システムを紹介する山下社長 (千葉県の千葉祖敬堂で)

1968年の創業。85年に新横浜工場を設立し、93年には薬品や調味料などのラベルを貼る機器の出荷台数が2000台を突破した。創業者の山下経一会長はラベリングマシンの発明などが認められ黄綬褒章を受章した。資本金2400万円。従業員125人。



## 光洋自動機、大型自動納骨システム受注 都内寺院から

(2018/7/26 05:00)



光洋自動機が自動納骨システムを納めた横浜市営墓地「日野こもれび納骨堂」の祭壇 (横浜市提供)

【横浜】光洋自動機(横浜市港北区、山下宣行社長、045・542・3161)は、東京都文京区の寺院から自動納骨システムを受注した。自動納骨機械6台を納入し、7200区画以上を納骨できる大型設備とする。受注額は約4億円とみられる。機械を納める納骨堂の建築工事はすでに始まっており、2019年6月に工事完了予定。同年7月から稼働する見通し。

光洋自動機の自動納骨システム受注は今回で11件目。納骨設備の区画数はこれまでで最大規模となる。納骨堂は地下1階、地上3階建てで、祭壇は地下1階と3階に設ける。

自動納骨システムは、参拝者が事前に登録したカードを受け付けの機械にかざすと、1分以内に遺骨が納骨棚から祭壇に搬送される。参拝後に終了ボタンを押すと、遺骨は祭壇から納骨棚に戻る。参拝履歴をデータで残すほか、管理費未払い者の把握につながる機能なども盛り込む予定だ。

同システムはステンレス製で50—100年の耐久性があり、さびにくく腐食が発生しない。またベルト駆動などの機械音は静かで、ステンレスコンテナには耐震ストッパーを装備している。

同社は自動包装機械や自動収納機械を主に手がける。自動倉庫の仕組みを応用して自動納骨システムを開発し、20年前から販売を始めた。17年には横浜市営墓地「日野こもれび納骨堂」(同市港南区)向けの大型自動納骨システムを受注し、18年3

月に完成させた。

国内で高齢化が進む中、同社は需要が高まる自動納骨システムをさらに伸ばしていく意向だ。山下社長は「今後も今回と同規模の案件を安定的に受注していきたい」と話す。

(2018/7/26 05:00)

光洋自動機社長

山下 宣行氏



①当社は、ペットボトル飲料や医薬品の外装であるラベルの取り付け装置が主力だ。メイン顧客である医薬品業界は景気動向に左右されず設備投資を行う傾向があるため、2019年も堅調な事業環境が予想される。

## 新型ラベリング機など提案

う。  
(横浜市港北区)

②ペットボトル飲料を1分間に1100本のラベリングできる新型機を発売する。すでに装置は完成しており、飲料会社の生産効率化投資にあわせ提案していく。

③企業は絶えず生産効率を向上し、毎年企業価値を向上させていくことが大事だ。後継者・人手不足問題は「継ぎたい会社」「働きたい会社」であるなら発生しない。当社もそれを肝に銘じ成長していきたいと思う。

### 【光洋自動機社長・山下宣行氏／新型ラベリング機など提案】

(1) 当社は、ペットボトル飲料や医薬品の外装であるラベルの取り付け装置が主力だ。メイン顧客である医薬品業界は景気動向に左右されず設備投資を行う傾向があるため、2019年も堅調な事業環境が予想される。

(2) ペットボトル飲料を1分間に1100本のラベリングできる新型機を発売する。すでに装置は完成しており、飲料会社の生産効率化投資にあわせ提案していきたい。また、異物混入を発見する自動検査機も提案を強化していく。

(3) 企業は絶えず生産効率を向上し、毎年企業価値を向上させていくことが大事だ。後継者・人手不足問題は「継ぎたい会社」「働きたい会社」であるなら発生しない。当社もそれを肝に銘じ成長していきたいと思う。

(横浜市港北区)



光洋自動機社長・山下宣行氏

(2019/1/4 05:00)